

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590200040		
法人名	鈴木ヘルスケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム鈴の家		
所在地	滋賀県彦根市田原町87-2		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	平成23年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2590200040&SCD=320&PCD=25
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成23年11月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの日々の状況を把握し、日々の生活を大切にしています。利用者のできること、できないことを知り、その人が楽しく安心して日常生活を送れるように支援しています。その中で、外出や外食、行事といった非日常的なことも楽しんでいただけるようにしています。ホームページを立ち上げ、毎日の様子を写真で紹介しています。
URLは次の通りです http://blogs.yahoo.co.jp/suzunoiesuzuki

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三方に田園が広がる自然豊かな市南部の集落の外れに、当事業所がデイサービスセンターと同居する形で在る。『このまちにいつまでも安心して暮らし続けられる支援を行う』と云う運営者の想いは、「住み慣れた我が家です。いつでも安心して暮らせる様、利用者本位のサービス提供を行い…」を法人統一理念と定め、職員は家庭的で落ち着いた雰囲気の中で普通に穏やかな生活を送る事の支援に努めている。平屋建て、バリアフリー、床暖房、浴槽、トイレにレストテーブルの採用、テーブル、椅子等、あくまでも利用者に配慮した調度品を備えている。利用者は職員と共に毎日の食事作りや入浴等、普段通りに過ごしている。ホームページを開設し、事業所や利用者の日々の暮らし振りを紹介している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議時に唱和し、共有しています。日々のケアやカンファレンスで困った時は、理念に戻り、その利用者にとって良い方法は、と考えています。	法人の統一理念に副って、地域密着など4項目を謳った基本方針を実践目標にしている。利用者の想いが掴み難い時等、理念に戻り利用者本位を最優先に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して地蔵盆やお祭り、地域防災訓練等に積極的に参加し、地域に受け入れてもらえるようにがんばっています。広報紙を回覧版で回して貰っています。	老人会には未加入だが地域の行事には積極的に参加している。今年は地域の防災訓練に事業所の敷地を提供した。地域内ボランティアが年末等定期的に清掃活動をしている。地域への働き掛けは検討中である。	地域と更なる密着性を高める為にも事業所の特性を活かした認知症の啓発活動等働き掛けが実現する事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉の職場体験を受け入れています。また、毎月、会社の広報誌を配布し、日々の活動をお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の写真をDVDにし、日々の暮らしを知っていただき、意見交換をし、家族や地域の方々からの要望や意見を伺い、サービスの見直しを行っています。	2ヶ月毎に行政、地域代表、全利用者、家族、勤務全職員で構成し会議を実施している。議題は自己、外部評価実施の説明、協議やDVDで避難訓練の紹介もしている。職員は協議内容を周知し質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1回の運営推進会議の出席をお願いしています。また、毎月広報誌を配布し、日々の活動内容をお知らせしています。	毎月、行政担当部を訪問し広報誌を配布し、事業所の運営に関する事や日々の活動内容を報告している。利用者の混乱事例等、相談し助言や指導を得ている。毎月介護相談員の受け入れをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を実施し、身体拘束について理解を深めています。また、外部研修にも機会があるごとに参加しています。日中、玄関の施錠はしていません。	身体拘束や虐待、人権尊重などに関する内外の研修に職員は参加し、伝達による講習で職員は拘束による弊害を理解しケアに活かしている。施錠せず、センサーに頼らず職員は利用者の見守りに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を実施し、虐待について理解を深めています。また、外部研修にも機会があるごとに参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内・外部の研修に参加し、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、相談室で落ち着いて説明を行っています。説明後、すぐにサインを求めず、内容を確認してもらうために、日を改めて提出をできるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見交換を行なっています。直接言にくいことは、意見箱を設置しています。 また、日頃から家族が来所された時は話しやすい雰囲気を作れるように気をつけています。	運営推進会議に全利用者と大部分の家族が出席し、意見、相談を受けている。相談、苦情の窓口として事業所の担当者と外部公的機関を重要事項説明書に明記し説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務改善会議を実施し、意見交換の機会を持っています。 また、年2回の代表者と、毎月、管理者との個別面談を行なっています。アンケートも行なっています。	毎月、全職員が参加出来る日に職員会議を実施し事業計画やケアの内容等話し合い、意見や提案を話し合い改善に繋げている。職員は年間自己目標計画を出しそれを運営者が年2回、進捗状況他、面談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、代表者との直接か別面談をし、意見の聴取を行なっています。また、随時、管理者からの報告を受け、職場環境・条件の整備に努めています。毎年、就業規則の見直しを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者がケアマネや介護福祉士の試験対策講座を実施しています。また、必要な者だけでなく、個々の希望に応じて研修を受ける機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬グループホーム部会に加入し、部会研修に参加しています。また、交換研修会等の交流も行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所判定前に訪問を行い面接を行なっています。また、事前に見学に来ていただけるようお話をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所判定前に訪問を行い面接を行なっています。入所後も、随時連絡を行い、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いや状況について、家族の方に報告し、家族の希望も聞かせていただき、担当者、ケアマネ、代表者、スタッフでカンファレンスを開き、相談・問題解決に取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること出来ないことを把握し、利用者が主体となる様に、ご本人に聞きながら、相談しながら、掃除や炊事、身の回りのこと等を一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前の暮らし方を家族に聞き、情報を得ています。家族との外泊や外出もできるだけしてもらっています。入居しても家族と一緒にご本人を支えていくことを入所時に説明しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪ねてこられた時は、歓迎しています。居室でゆっくりお話ができるように支援しています。	職員は入居前の生活歴を把握し、馴染みの関係継続に外出等の支援をしている。馴染みの場所への外出は家族も協力している。職員は家族・友人・知人の訪問を歓迎し、居室で寛いで話ができる様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にお話をされたり、お手伝いをされています。困っていることがあれば、お互いに気遣い合ったり、馴染みの関係ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しく入所された施設に、訪問するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族への聞き取りや日常の会話から把握に努めています。また、運営推進会議でもご本人から意見・要望がないか伺っています。	意向の表出が困難な利用者に対しての把握は毎日接している中で僅かな表情や素振り、嫌な事に対する拒否感の表し方等から意向を推測しケアに当たり、その反応を見て更なる把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接を行い、本人、家族から聞き取りを行なっています。また、その都度、必要に応じて、本人や家族から教えてもらっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしを観察し、記録を残しスタッフ間で共有しています。また、重点的に観察が必要な事項についてはスタッフに周知して把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを行いスタッフ間で話し合っています。家族や本人から聞き取りも行い、3ヶ月に1回、介護計画を見直し作成し、家族に確認をしています。	介護計画は利用者の生活歴を把握し本人や家族の意向を聞き、スタッフで話し合い作成する。毎月のカンファレンスで3名ずつ、モニタリングして計画を見直している。何れの場合も家族の承認と確認印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に気づき等の記入欄を設け、日々のケアで観察、情報の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応ができない場合に、受診をの付き添いを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の駐在所や消防署、学校などに広報誌を持って行くなどして、協力、理解していただけるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望でかかりつけ医を決めています。日常の様子をお伝えしたり、必要に応じて受診の付き添いを行なっています。	かかりつけ医と事業所の連携として職員は積極的に家族が行う通院の付き添いに同行し、健康状態の共有と良好な関係作りに努めている。かかりつけ医を契約医に変更は家族の希望で5名いる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護ステーションを利用しています。週1回の定期訪問や緊急時の24時間対応で利用者の状態の変化の相談、指示をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中でもできるだけ面会に行き、退院後もスムーズに元の暮らしに戻れるように配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルと重度化について指針を作成しました。家族や医師、看護師、スタッフ間で連携を取り、支援を行なっています。	重度化や終末期ケア対応指針書を策定し利用契約時に対応可能な旨、記載し説明している。重度化の時点で家族と意向確認書を交わしている。職員はターミナルケアに関わる内外の研修や講習を受講し理解の上、心構えが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の職員に来ていただいて、応急手当、AEDの使用法の研修を行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行なっています。夜間想定や地域の防災訓練にも参加しています。地域の緊急連絡網にも掲載されています。AEDを備え、自治会の災害訓練時、紹介をしました。	年2回、消防署指導の下、避難、通報、消火訓練を実施している。地域の参加は未だ無い。訓練は出火場所や夜間を想定し実施している。災害対応マニュアルを備え避難経路図、緊急連絡表を見易く掲示している。	地域の災害訓練の場に事業所の敷地を提供したのをきっかけに地域からの参加を得て訓練の実現を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修を行い、利用者を人生の先輩として、敬意をはらうことを、日々心がけています。個人情報書類等は書庫に保管しています。	利用者の誇りを大切にし、全職員が話し方、接し方等を毎月実施している人権、プライバシー、虐待、拘束等の研修で学び、ケアに活かしている。特に排泄の声掛けは大きな声を出さない様に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の内容や今したいことがないか等利用者に聞くことを心がけています。その方の状態に合わせて、候補を挙げる等、選びやすくするなど工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはありますが、強制することなく、ご本人の過しやすいように過していただいています。希望に合わせて、夕食後の入浴もされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えをすることで、季節に応じた服を選びやすくしています。 介助で着替える方も、どの服が良いか、その日着る服を選んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の準備から片づけまで、その人ができることは任せて、スタッフと一緒にしています。	広い台所は下拵えや調理、盛り付け、洗い等が4方から出来るアイランド型キッチンを取り入れ、利用者と職員が楽しく語りながら調理したり食事を摂っている。利用者の誕生日会の食事は全利用者が楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一度、管理栄養士に献立を確認してもらっています。制限のあるは、医師の指示により主食の量を調整しています。 一人ひとりに合った食事の形や好き嫌いに配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアの声かけ、介助を行なっています。 毎晩、就寝中に薬剤による義歯洗浄を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導をし、トイレで排泄してもらるようにしています。パット等を使用している方も、その人にあった利用を考え、その都度見直しを行っています。	一人ひとりの排泄時間や量を記録し、排泄パターンや表情を把握している。これらを全職員が共有し、自立の支援は夜中もトイレ誘導をし排泄の失敗が無くなったり、パットの交換を少なくしたり外すことも出来た。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く摂ってもらう等対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴していただいています。夜を希望される方は、夕食後の7時頃から入浴されています。	午後2時45分から、夕食後7時からと希望の時間帯に全員が毎日、入浴を楽しんでいる。浴室、脱衣室は床暖房等で快適な温度管理をしている。浴槽は4方から介助出来、縁は掴み易い幅、高さ等利用者に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をしたり、部屋でゆっくり過ごしていただくなど、一日の過ごし方を自由にいただいています。また、その方の状態をみて、臥床を進めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用、用法について理解し、薬の変更時は、注意事項をスタッフ間で共有し、様子観察・記録をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意だった食事作りや掃除、裁縫といった日常生活でできることをお願いし、感謝の気持ちを伝えていきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日買い物に出かけています。また、行事等で外出や外食に出かけています。	好天時は車椅子を利用して近隣や近くのお寺まで散歩して。季節毎の花見・祭りの行事の時には揃って外食に出掛けている。毎日の食材仕入れは利用者が交代で出掛け楽しい外出となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人には、できるだけ本人に管理してもらっています。利用者が、自分でお金を持つことで安心できることもあることをスタッフに周知しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族に電話をしています。また、年賀状、暑中見舞いを出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴槽やトイレ、フロアの六角テーブルや椅子、トイレ等生理学にかなった作りで、利用者に使いやすいように工夫しています。写真を飾るなど温かみのある空間になるように工夫しています。	吹き抜け天井の広いキッチン、食堂、居間を兼ね備えた多目的ルームには隣の人と横でもなく真正面でもなく交流できる六角テーブルや老人の下腿長、平均38cmに合わせた高さ、背凭れを工夫した椅子等、利用者本位の調度品を設え居心地良く過す配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりやウッドデッキのに座って、外の景色を眺めたり、昼寝や談笑を楽しまれています。玄関先の長いすでも、一人で外気浴をされたり、数人の利用者でくつろいでおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやベットなど、できるだけ使い慣れた物を使っていただけるように、家族に伝え、持ってきていただいています。カーテンなど、本人、家族の好みにまかせて、本人の居心地の良さに考慮しています。	居室は明るく清潔に保ち温度管理が行き届き、使い慣れた家具類が持ち込まれ、家族の写真や手芸品を飾っている。仏壇を持ち込み仏花を供え勤行をする利用者もいる。冬季は電気カーペット、電気敷き毛布を使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに名前の表札を張ったり、トイレが分かるように表示をしたりしている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地域の防災訓練に、敷地を提供し、入居者も参加をしたが、鈴の家の火災通報・避難・消火訓練には参加していただいていない。	鈴の家の火災通報・避難・消火訓練に、地域の方の参加をしていただく。	運営推進会議などで、自治会に働きかけをし、地域の方が参加していただけるように、働きかけをします。	12ヶ月
2	2	地域行事に参加しているが、事業所の特性を活かした地域での活動が行えていない。	認知症の啓発活動など、介護事業所として特性を活かした関わりを持つ。	運営推進会議などで、自治会に働きかけをし、地域の方のニーズを聞き、さらなる関わりをもてるようにします。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。